## 昭和40～50年代

### （1）中川正行 君「男子砲丸投げ日本中学新記録」

昭和 39 年度、中川正行君が本校に入学。当時、坂中の陸上競技は全盛期と思える程の勢いがあり、各種大会で多くの記録を残していた。彼は 1 年生時から腕力・体力が人並みはずれて強く、３年生もかなわない程であった。学級担任であり、陸上部の顧問であった渡部博之 先生は、陸上部への入部を勧めた。入部して間もなく、郡市対抗陸上競技大会に出場、本格的な練習も積んでいなかったにもかかわらず、優勝という結果を出した。その後の彼は、投てきへの目標が膨らみ、人が変わったように、毎日放課後、周囲が真っ暗になるまで、練習に取り組んだ。投てきの専門的な指導ができる教師もいない中、脚力や体力など総合的な力をつける必要があると考え、自分独自の練習法を編み出し、練習に励んだ。ジョギング、高跳び、幅跳び、バーベル上げ等、学校だけではなく家庭でも練習を重ねた。昭和 41 年 11 月３日、西の丸競技場で行われた徳島県陸上競技選手権大会 男子砲丸投げで、３年生になった中川君は、日本中学新記録（16 メートル 32）を樹立した。

昭和41年日本新記録樹立（中川君）

彼の日本記録は、投てきへの熱い思いが目標となり、自主トレーニングを編み出し、肉体的にも精神的にも大きく成長した結果、生まれたものと考える。昭和 61 年の更新まで、彼の記録は約 20 年間破ることができなかったのである。彼はハンマー投げにも熱い思いを持っていたが、練習場所の関係で実現できなかったのが残念である。

中学卒業後は三重高校（中京大学の附属高校）に進み、高校インターハイ砲丸投げで３年間連続優勝という偉業を成し遂げている。（湯浅藤吉氏・渡部博之氏　談）

### （2）文部省指定生徒指導研究発表会（昭和 43・44 年）

研究テーマ　『心身ともに健康で自主、創造性に富む生徒指導』
—ひとりひとりを伸ばす学級活動を基盤として—

**○　本校生徒指導の全体構想とまとめ**

生徒指導はすべての生徒を対象にあらゆる場で、あらゆる機会を通して行われなければならない。また、学級が基礎的集団場面として生徒指導の重要な場であり、生徒指導が人格の完成を目ざし、個性をもつひとりひとりの生徒の自己実現を図らせるための援助であるならば、望ましい学級、すなわち「ひとりひとりを伸ばす学級」をめざして進むことにより、生徒指導は推進され、目標達成につながるものであろうと考えた。したがって「ひとりひとりを伸ばす学級」経営を中心に学級活動、道徳、教科等、各領域の調和のとれた指導を通して実践してきた。

今日の学校教育をながめてみると、大学紛争をはじめとして知育偏重の教育を憂えない人はいないであろう。しかし、上級学校進学が子どもの一生を左右するとばかり猛烈